

## 令和元年9月定例会（後半） 一般質問（概要）

令和元年12月12日（木）

質問者：魚森 ゴータロー 議員



（魚森議員）

大阪維新の会大阪府議会議員団、大阪市都島区選出の魚森ゴータローです。

選ぶ師匠によって、人生は変わる。

この言葉は、現議長である三田かつひさ議員の言葉です。  
過去の自分、現在の自分を鑑みて、つくづく胸に響く言葉です。

私は脱サラをして、この世界に飛び込みました。堺屋太一先生をはじめ様々な方と出会い、様々な経験を積ませて頂き、紆余曲折、つまり選挙での落選、悪性リンパ腫の罹患と、いくつかの波乱万丈を乗り越えて今、この場に立たせて頂いております。

これまでの感謝の気持ちを忘れず、大阪のさらなる発展のために、世界に誇れる大都市大阪を目指して尽力してまいります。

それでは通告にしたがい、順次質問させていただきます。

## 1 ストリートピアノの活用について

はじめに、魅力ある大阪を目指した、ストリートピアノの活用について伺います。

最近、全国各地において、街角に設置された、誰でも自由に弾けるピアノ、いわゆるストリートピアノの設置の取り組みが広がっています。このことは、先の9月議会前半の府民文化常任委員会において、我が会派の中司議員も、取り上げさせていただいたところであります。パネルをご覧ください。



1

こちらはグランフロント大阪に設置されているピアノです。誰でも自由に演奏することができます。

ストリートピアノは、家庭などで使われなくなったピアノを、ボランティア団体や自治体が、公共施設や駅のコンコース、商業施設に設置する場合や、民間企業が広報活動の一環として、設置する場合など、様々なケースがあります。いずれも、誰もが音楽に親しめる、環境づくりに貢献するものであります。



東京都では本年4月、第一本庁舎45階南展望室に、芸術家の草間彌生さんが、装飾を、監修したグランドピアノが設置されました。動画サイト YouTube には、ピアノを弾く人々の様子が投稿されており、その様子がうかがえます。

多くの人が集まる場所に、話題性のあるピアノを設置することで、うまく展望台の魅力アップを図っている事例といえます。

また、期間限定のイベントで設置される事例も見受けられ、ストリートピアノは、ブームになっています。

大阪府内でも、設置にふさわしい場所はたくさんあります。ピアノの調達、警備、メンテナンスなどの問題はありますが、多くのインバウンドが大阪を訪れる中、YouTube による発信力も活用すれば、起爆剤となって更なる大阪の魅力向上につながると思います。ストリートピアノを府内で活用すべきと考えますが、府民文化部長のお考えをお伺いします。

(府民文化部長答弁)

議員お示しのストリートピアノについては、気軽に文化芸術に親しめる機会の提供や、地域におけるにぎわいの創出につながるものとして、全国各地で設置されていることは承知しています。

今後、文化施策の推進や都市魅力向上の観点から、ストリートピアノの府内での活用について、全国の効果的な取組みも参考にしながら検討したいと考えます。

(魚森議員)

ありがとうございます。

近隣では神戸市が、積極的にストリートピアノの設置に取り組んでおり、市長はこれからも台数を増やしていくとおっしゃっています。

民間施設における期間限定イベントでの導入や、民間事業者への設置働きかけなど、できることはいろいろあると思います。引き続き、検討を促進していただき、

大阪府として、時流に乗り遅れることなく、ストリートピアノの設置を促進していただくよう要望します。

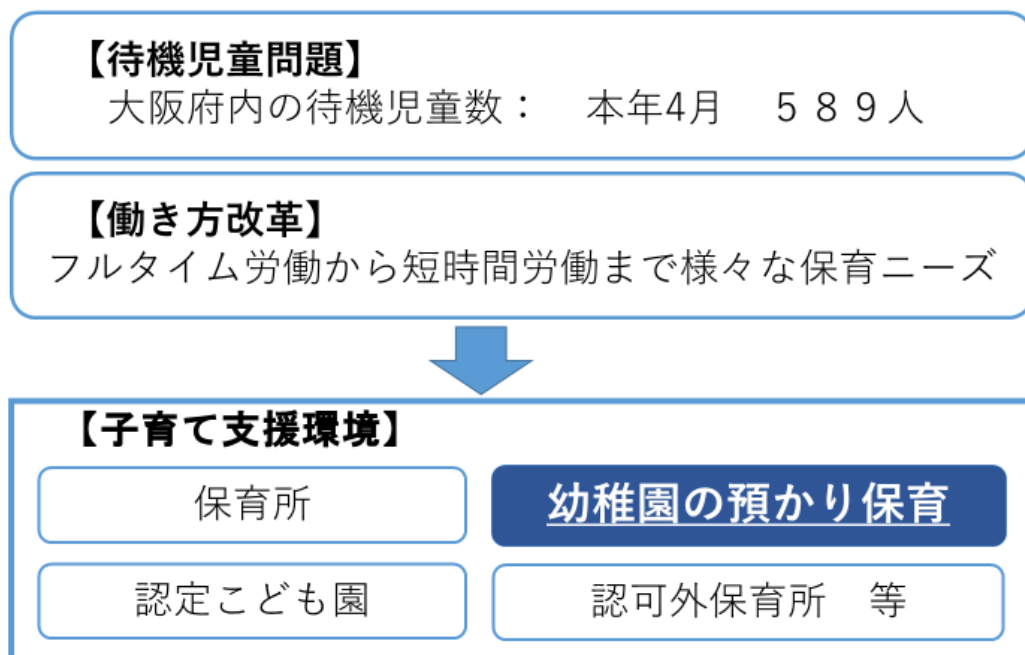
魅力ある大阪、そのさらなる成長を期待しております。

## 2 私立幼稚園の預かり保育

(預かり保育のニーズについて)

次に、預かり保育について伺います。

この10月から、国において幼児教育・保育の無償化がスタートしました。これにより、保護者負担が、大幅に軽減されたことはよいことだと思います。パネルをご覧ください。



一方で、待機児童問題は、完全に解消されたわけではありません。本年4月時点で、依然として府内に589人の待機児童がおり、早急な改善が求められています。

国が進める働き方改革を背景として、待機児童を抱える保護者の働き方も様々です。子どもたちの保育を担う施設は、フルタイムから短時間労働まで、多様な保育ニーズに対応する必要があります。

このような中、幼稚園の預かり保育は、待機児童解消や働き方改革に大いに貢献する制度です。これまでも、府内の9割を超える私立幼稚園において、教育時間に加えて預かり保育が実施されており、子どもたちの保育の役割を担ってきましたが、今般の無償化により予想される保育利用者の増加に対応できるかどうか、ということが懸念されてきました。

大阪府は私立幼稚園に対して、無償化後の預かり保育の実態調査をしたのですが、その結果、預かり保育利用の状況はどうだったのでしょうか。また、預かり保育利用者のうち、市町村から保育の必要性が認められた子どもは、どれくらい利用しているのでしょうか。教育長に伺います。



(教育長答弁)

私立幼稚園の預かり保育について、無償化後の実態を把握するため、10月に調査を実施し、預かり保育を実施している私立幼稚園全園から回答を得ました。

預かり保育を利用する子どもの数は、無償化前に比べて約2割増加しています。

また、預かり保育利用者のうち、保育の必要が認められた子どもは約7割であることから、幼稚園の預かり保育が、多様な保育ニーズに対応していると考えられます。

(預かり保育の課題と対応について)

(魚森議員)

ありがとうございます。預かり保育利用の状況について、理解しました。引き続き、課題と対応について伺います。パネルをご覧ください。

■預かり保育の新たな基準

○教職員配置基準：3歳児20人につき教職員1人  
4・5歳児30人につき教職員1人

○面積基準：子ども一人当たり1.98㎡

■懸念

預かり保育の利用者 増加



**必要な教職員数 増加**

4

今般の無償化において、教職員体制等について、新たに基準が定められたところ  
です。利用者が増加すれば、幼稚園側はそれに合わせて新たに教職員を雇う等によ  
り、受け入れ態勢の充実が求められることとなります。

しかし報道等にも出ております通り、保育の担い手不足という状況が続いていま  
す。

このなかでは預かり保育の体制の充実も、簡単なことではないと思いますが、府  
として、預かり保育の現場における課題をどう考えているのでしょうか。また、そ  
れに対してどのように対応するのでしょうか。教育長に伺います。

(教育長答弁)

保育ニーズが増加しているなか、私立幼稚園における預かり保育の体制の充実が課題と考えています。

調査結果において、半数以上の私立幼稚園が、無償化を契機として、預かり保育担当教職員の雇用等により体制を充実した、もしくは、充実を検討しているとの回答でありました。

一方、このうち約1割の園においては、募集はしたが採用できなかったとのことである。その理由の一つとして、園からは担当教職員の処遇改善が必要との声も聞いています。

府としては、実態調査において示されている課題を踏まえ、保育ニーズに即した預かり保育が実施されるよう、対応策を検討してまいります。



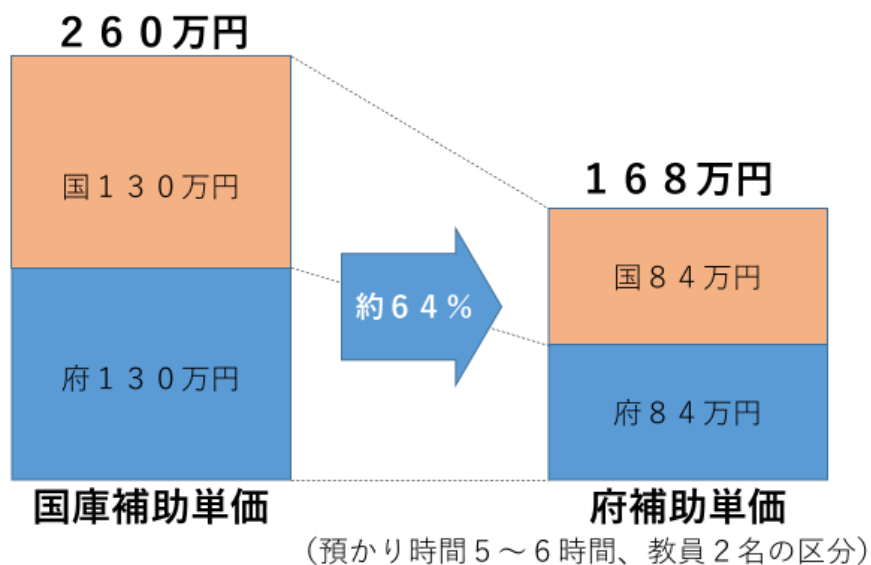
(魚森議員)

ご答弁ありがとうございました。

預かり保育が無償化の対象となることにより、保育所に通う子ども・保護者との公平性が保たれた制度となったことは評価できることです。しかしながら、保護者が希望しても実際に利用できなければ十分な制度とは言えません。

預かり保育への補助は、国と都道府県の財源により実施されているものでありますが、府の補助単価は国庫補助単価の水準に届いていない現状にあると聞いています。パネルをごらんください。

## 国庫補助単価と府補助単価の差（イメージ）



5

一例ですが、イメージを示します。国庫補助単価だと年間260万円ですが、府補助単価は約64%の168万円にとどまっています。

保育ニーズが増加し、無償化に伴う、新たな教職員配置基準を満たそうとすれば、体制の充実が不可欠になります。そのためには少なくとも、国庫補助単価の水準で補助を実施する必要があるのではないのでしょうか。府の現行の預かり保育の補助の水準が、体制充実に影響しないかが心配です。

また、府の預かり保育補助事業は、幼稚園が設定する時間や教員数ではなく、実際に子どもを預かった時間や対応した教員の実績に対して、交付されるものと聞いています。

本件は、先日の冬の知事要望でも我が会派が取り上げたところですが、住民の多様な働き方を支援するためには、子育て環境の改善に向けた支援策を講ずることが必要不可欠です。

SDGsの「ジェンダー平等」で求められている、女性の参画を進めていくことにも、寄与するものと考えます。大阪府においては、預かり保育のサービスの質と量を確保するため、課題改善に向けた対策をしっかりと練ってもらうようお願い致します。

### 3 若年がん患者への支援

最後に、若年がん患者の妊孕性・生殖機能の温存治療、その助成制度の創設について伺います。

先の9月議会前半の一般質問で、他会派の議員が、がん患者の妊孕性の温存に係る助成について質問をされ、府は今後しっかりと検討していくと答弁されていました。

将来子どもを授かりたいと願うがん患者の、卵子や精子の凍結は重要な課題です。パネルをご覧ください。

## 妊よう性・生殖機能温存治療にかかる費用

これらは、すべて**自費診療**になります。費用は、受診される医療機関により異なります。また、以下の費用は、おおよその目安の金額です。

|              |                   |
|--------------|-------------------|
| カウンセリング料     | : 初回5000円、再診2000円 |
| 受精卵凍結        | : 約35万円           |
| 精子凍結         | : 約5万             |
| 卵子凍結         | : 約35万            |
| 凍結保存した場合の更新料 | : 2~6万円           |
| 卵巣凍結         | : 約60万円           |
| 凍結精子を使った顕微授精 | : 約40万円           |

(がんと妊娠の相談窓口 がん専門相談員向け手引き 国立がん研究センター中央病院相談支援センター(編) より引用)

6

とある病院の例ですが、精子凍結は約5万円、卵子凍結は約35万円、凍結精子を使った顕微授精には、約40万円の費用が掛かります。さらに凍結保存した際の、更新料が2万円から6万円ほど。これらはすべて自費診療であり、非常に大きな負担になります。

将来子どもを持ちたいと願う、がん患者の妊孕性・生殖機能の温存治療については、女性の受精卵や卵子の凍結保存だけでなく、男性の精子凍結についても重要な課題であります。今後、府が妊孕性・生殖機能の温存の助成を行えば、子どもを望むがん患者に希望を与えることができ、若年世代の活性化にもつながると考えます。

そこで、妊孕性の温存について府はこれまでどのような取り組みを行い、また助成事業についてどのように検討を進めていこうと考えているのか、健康医療部長に伺います。

(健康医療部長答弁)

男性を含めたがん患者の妊孕性・生殖機能の温存は、切実な課題のひとつであるとの認識のもと、セミナーの開催や冊子等の作成を行い、医師や患者等に対する情報提供に努めてきたところです。

また、妊孕性温存に対する助成制度については、他府県での取組の広がりや、医療の状況も念頭に置いて、検討することとしています。

具体的には、今年度中に、「大阪がん・生殖医療ネットワーク」と連携して、医療機関における温存治療の実施状況等についての調査を行ったうえで、今後、他府県



の事業効果の把握や、妊孕性に関する患者や医師の意識調査等を行っていきます。

(魚森議員)

冊子の作成ありがとうございました。是非、医療機関へ配布いただき周知をお願いします。私のがん罹患時には無かったので、がん患者をはじめその家族において大変役に立つものと思います。

AYA 世代、いわゆる 15 歳から 30 歳代の思春期・若年成人へのがん対策は、まだまだ遅れています。平成 29 年度から令和 4 年度までの「第 3 期がん対策推進基本計画」に AYA 世代のがん対策が初めて明記され、分析がおこなわれました。

国立がん研究センターの片野田研究部長は、「この詳細な分析により、地域ごとの医療需要の把握が可能になった。」としています。

将来子どもを持ちたいと願う AYA 世代のがん患者に対するさらなる支援を、大阪府には切に要望します。



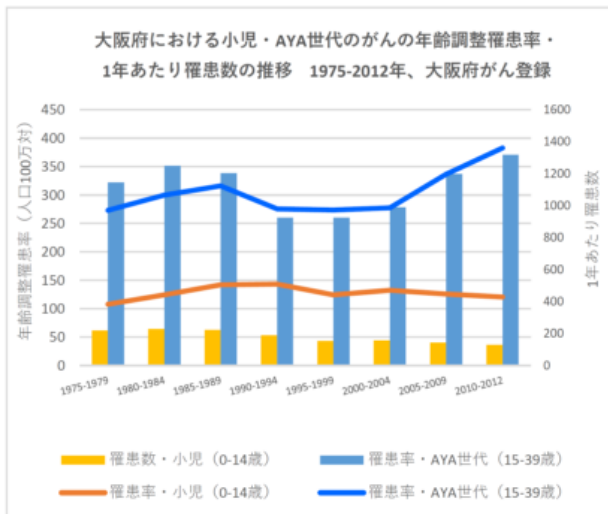
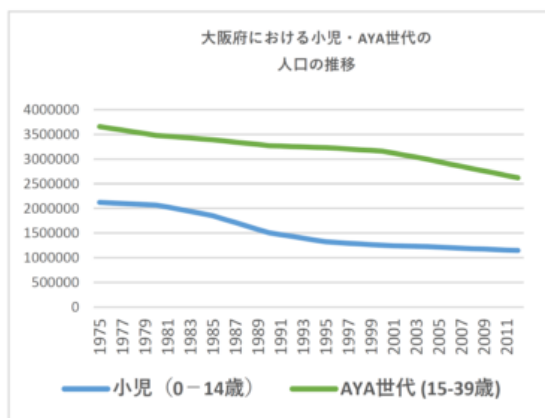
私は、議員となる前、医療機器メーカーのセールスマンとして、レントゲン、エコー、マンモグラフィー、CT や MRI などの販売のため、大きな病院から中小のクリニックまで訪れていました。そこで小さな乳飲み子を抱えたご婦人が、不安そうに診察結果をお待ちになっていた姿を鮮明に覚えています。また、知人の母親が乳がんで他界するなど、胸を締め付けられるような思いをすることが多々ありました。

がんの早期発見は、非常に大切です。大阪府のがん検診受診率は、年々向上していますが、依然として全国低レベルにあります。私自身、咳がとまらず上司から病

院で検査を受けるよう、うながされなければここにおりませんでした。パネルをご覧ください。

【報告】大阪府における小児・AYA世代の人口・罹患・生存率について

大阪国際がんセンター がん対策センター 政策情報部 中田 佳世



※ AYA は Adolescents and Young Adults (思春期と若年成人) の略

大阪府ホームページ(小児・AYA世代のがん対策部会 会議資料): <http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/15663/00225211/05.shiryou2.pdf> より引用

7

大阪府における AYA 世代全体の人口は減少し続けているのに対し、AYA 世代のがん罹患率は増加傾向にあると言えます。この主な要因は、野菜の摂取量が減少し魚より肉を摂取するなどの食文化が変化したことや、検査機器の精度向上により検診が簡易になり検診者が増加したことなどが考えられています。

日本人全体では 2 人に 1 人が、がん罹患し 3 人に 1 人は、がんで亡くなっています。その死亡率は、年々増え続けております。

悪性リンパ腫と自分が診断されたとき、「人生まだまだこれからなのに！」と、心の中で叫びました。治療にあたった医師から種々説明を受けるにつれ、生き延びたとしてももう子に恵まれることはないのか、と非常に不安になりました。

病気について自分なりに調べ、子どもを望むのであれば抗がん剤治療前に、精子凍結という方法があることを知りました。もっとも、その高額な費用に啞然とした記憶がございます。

将来子どもを持ちたい、と願う AYA 世代にとって現状は、化学療法に放射線治療にと、精神面でも負担が大きいにもかかわらず、医療費の負担も重なってしまう二重苦となっております。

私は幸い、大阪の友人、上司、医療機関、行政の仕組みで助けられました。そのお陰をもって、私は今、ここに立つことができています。

行政として限られた予算の中でやり繰りしなくてはならない事は、重々承知しておりますが、現行の制度だけでは罹患者の負担は、経済的にも精神的にも大きいことは確かです。

少子高齢化がすすむ中、子育て世代への投資が、大阪の活力を生む事は言うまでもありません。

今後、ここ大阪を支えていく世代が、夢と希望、そして安心と充足感をもって生きていくためにも、行政としての仕組み作りの工夫、サポートの拡充をお願いしたいと思います。

今現在、大阪は、大阪府知事、大阪市長が同じ方向をむいているので成長を続けています。

この流れを、恒久的にする仕組みが、大阪都構想です。

私は、大阪都構想実現に向け頑張ります。

また大阪・関西万博の成功を。

One TEAM。

そして、目指せ One OSAKA。

生かされたこの命。

大阪の今と未来のために、尽くしてまいります。

以上で、わたくしの一般質問を終わります。

ご清聴ありがとうございました。